

# 静中・静高 関東同窓会 会 報

静中・静高関東同窓会  
会報 第10号  
昭和55年12月19日発行  
編集人 月見里得知郎

## 関東同窓会総会

於・築地スエヒロ

本年度関東同窓会総会は六月二十日築地スエヒロに於て恒例によつて行はれた。

来賓として同窓会より鈴木会長 小山副会長、土屋島田支部長、母校より吉川校長、杉山先生を迎えて盛会であった。

この日、空梅雨の予報を裏切つて本降りの雨であった為か、申込人員三百余名に対し、実出席者は二百五十名と例年より少なかったが、女性会員の姿もあてやかに、又、定時制会員の積極的参加もあり、特に昨年来の学生会員は進学会員十九名を加え、若い雰囲気を感じさせて有意義であ

った。

会は月見里幹事長の司会で開会し、校歌に続き宮沢会長の挨拶、鈴木同窓会長の挨拶、吉川校長の挨拶と近況報告及び杉山先生の紹介があった後議事に入った。

議事は五十四年度事業報告、同会計報告を奥野副会長、同監査報告を村松監事が行い、次で五十五年度事業計画、同予算を奥野副会長説明、一括可決して終了した。

議事後、特に宮澤会長の紹介で今年の進学会員が演壇の前に出て挨拶し、母校々長とも対面して拍手を浴びた。

同窓会事務局よりの事務連絡があった後、本日の最先輩四十回生

野崎操一氏の音頭で乾杯して懇親会に入る。

例の如くテーブルには黒ハンペンのフライ、模擬店にはニエキリおでん等々故郷の匂いをめぐって会場は満員の盛況、「六七回」、「七一回」等というブラカードで迷子同級生を集める手廻しの良い期もあつたりして和気充満の交歓の中に予定時間が過ぎ、恒例の応援団長四二回井出先輩、四七回杉山先輩の意気盛な指導により静中静高熱が最高潮となる。若者よ立ての声に励まされて新会員集合。逍遙歌を以て先輩に酬いた。

四三回今井(旧姓林)氏の指揮により校歌、古式に従つて四節までを高らかに歌い上げ、四十回野崎先輩の発声で万歳を三唱して閉会した。

土産物コーナーも例年の如く安倍川餅、追分羊羹、わさび漬、小饅頭等盛況で早々に売切れになつて、閉会後では間に合わぬ程であ

った。

今年の総会の特色は学生会員、特に進学会員の出席が定着し、会の体質に新しい息吹きを感じさせる様になった事であろう。その陰には進学生諸君への連絡を担当された六七回の盛岡、梶原、朝比奈三氏の尽力、特に腰痛をおして

### その後の同窓会活動

○六月一〇日 規約検討委員会

新に設けられた規約検討委員会第一回が、母校同窓会で行はれた。鈴木会長より趣旨説明の後、三九回の岡田新太郎氏を委員長に選出し議事に入った。第一回という事で一般事項、特に問題点の把握について討議した。

○六月二〇日 五五年度総会  
総会の詳細別掲の通り

○九月七日 江の島会

恒例の江の島会が恵比須屋で催され約五十名が出席し例によつて賑やかに初秋の一日を楽しんだ。

○九月一七日 幹事会

トップバンムア社会議室にて。会長以下四四名、議事次の通り。一、総会報告。奥野副会長より報

五月連休を宛名書きに費された朝比奈氏の御苦勞があった事を特筆しなければならぬ。

又、静岡名物の準備については例年の如く桜井昌一郎氏他の在静同窓生諸氏の御協力の賜物であつて、共に感謝の意を表する次第である。(月見里記)

告があり承認された。注目すべき点として、雨の為出席予定者の当日不参が大分あつた為赤字を生じた事が挙げられている。

二、ゴルフ会、ハイキング会の計画を各担当幹事から発表された。三、会報一〇号の発行予定、原稿募集について幹事長から説明された。

四、名簿・会報の発送依頼 懇談に入つて、宮澤会長より先般の訪中時の感想が話された。かつて長く中国人と共に仕事をされた会長の話は後輩に強く関心を持たせたせるものがあつた。

○十月二日 ハイキング会

○十月三日 ゴルフ会  
いづれも詳細別掲の通り。

# 各 期 便 り

## 四三回

中学時代ひそかに意識していた二人の学友、二人とも美少年で秀才であった。ほくは少々離れて二人を見、内心些かの憧れと、後ろめたい敗北感のようなものを、しばしば感じていた。

このことを、あるとき、ある人(複数)に告白したら、一人は、「キミ、それは同性愛(古い言い方!)の顯れだよ」と言い、もう一人は、「潜在的ライバル意識だな」と評した。前者には「そういう相手は外にいたさ」と切返し、後者には「おれ、そんなにしょつてないよ」と反撥したが、その時久しぶりに『少年の日の思い出』の作品が胸を衝いた。

二人のうち一人には、幸い百年祭の折に会い、久瀧を叙し得、豊中のお宅へ行ってみたいものだなとなつかしんだ。もう一人は、同じ寮生活で、一緒にいかかわしい(?)写真など撮っていた間柄なのに、なかなか会えない。ところが、昨秋九月十三日水戸へ講演

に行ったとき、宿へ訪れて来てくれたのには感激した。白髪と声に風格を加えてはいたものの、面持ち所作、五十年前と少しも変わらない。土地の名士なのに、おだやかで気取りがなく、さすがアと思つた。

二人とも有名なお医者である。

○ ○ ○  
今年度の関東同窓会が六月二十日築地スエヒロで開催された。久しぶりにクラス会員・同窓会員各位と青春時代に戻って楽しい一夜を過ごすことができた。今年若い会員の出席も多くて、大宴会場も模擬店まで大盛況であった。出席者は次の方々であった。

今井志郎、小河直人、倉沢栄吉、清水正昭、芹沢正憲、田崎茂夫、西沢純三、三好由三郎  
当日は常連の方々が都合がつかずに欠席され残念であった。次回総会には倍増して出席したい。天候不順の冷夏のため交友の機会も少なく、無情をかこっていたが、稀寿を記念して集まろうではないか、そろそろ昼席でもと言う

ことになって、北里良夫氏にお世話願って十月十五日正午に田町駅近くのサンハイツ八〇一号室に集合した。都合のつかない方もあつて、当日は十五名が早や早やと集つた。

北里氏差入れのビールで乾杯、光頭あり、白髪も童顔に戻つての懇談に秋晴れの午後を楽しんだ。出席の各位と計つて時々こんな会合をしようときまり、次回はこの場所をお借りして、一月二十日(火)正午から集る事にした。

出席者は次の通り  
今井志郎、池谷三郎、小川幹夫、小河直人、北里良夫、倉沢栄吉、島田富治雄、清水正昭、芹沢正憲、田崎茂夫、長戸寛美、西沢純三、三宅静雄、三好由三郎、吉江誠一 (十五名)  
静岡四三会本部からの予告のあつた第八〇回のクラス会も、十一月二十二日(土)静岡市赤沢の清流山荘で一泊して開催することに決つた。久々に関東、関西からも合流して、古稀を寿ぐ大会を盛大に挙行されることになった。

(倉沢栄吉)  
去る六月二十日築地スエヒロで開かれた関東同窓会総会には、青

## 四五回

木・草野・黒田・竹下・田代・田附・堀・鈴木の八名のほか、島田市から土屋詮二君が駆せ参じてくれました。毎年総会の後には、みんな連れ立って麻布のIBクラブに寄り飲談するのが例になっていましたが、この度は折悪しく雨天でもあり次の再会を約して三々五々別れました。その折黒田君(田園都市線あざみ野駅前中華料理店「桂林」その他経営)から「45期の集りを自分の店でぜひどうぞ」と申し出がありました。ご好意に甘えて次の45期の会は黒田君のお店で持たたいものだと考えておりますが、如何でしょうか。  
同期の諸君の消息について、その後特別耳にしておりませんので皆さまそれぞれ色々お過ごしのことと察しておりますが、私の耳に入った情報を二、三あげます。  
桜井君は胃潰瘍を手術しました。がすっかり癒えて多忙に仕事に追われている様子です。青木君が眼の病いについて茂原市の千葉保次君の所へ相談に伺つたところ、彼の医院では毎日二百名ぐらいの患者を診療し、地域の人達から神様みたいに信望を集めていると、感激した青木君から聞きました。このような千葉君の活躍は同期の我々にとってもまことに誇らしいこ

とと敬服した次第です。十一月三日伊豆大仁CCCで行われる関東同窓会ゴルフコンペには青木・田代・堀・鈴木の4人が参加することにしておりましたが、田代君が十月に腎盂炎を患いその後快方に向つているが大事をとって欠席したいと連絡がありました。大変残念ですが、一日も早く本復されるよう祈つております。なお、大石清・田代・田附君などとIBクラブで二、三回麻雀を楽しみましたがこのような遊びをご希望の方は鈴木までお知らせください。計画いたします。西郷君が横浜の住居をお子様によろずり静岡に居を移したとのことでした。老後(?)をなつかしい故郷で過ごすことにしようです。  
皆さま、どうぞ近況・随想等何でも結構です。鈴木までお送りください。まとめて頒布いたしたいと考えております。(鈴木麻門)

われわれ五二期もとうとう還暦をむかえた。ああ、もう還暦の歳になつたか、早いもんだなあ、昭和も五五年、大正は遠くになったなあというような感慨は確かにないことはない。しかし、正直な話、感慨といつてもその程度のもので

あつて、重くのしかかってくるような意識は全くない。通常は、何となく漠然としたものではあるが自分自身ではまだ二七、八才位の氣持でいる。これは私だけではなく、大方の諸君も同じ氣持だらうと思う。もっとも、時としては何かの機会に、年代が変わったなあという実感に直面することはある。

現に、われわれも去る一月三日文化の日(明治節といった方がピッタリするね)に関東同窓会のゴルフコンペでそれを実感させられた。場所は伊豆大仁カントリークラブ、天気はやや風があつたがまづまずの好天。五二期からは、川島、苫米地、直原と私曹根の四名であつたが、参加一〇組のうち、なんとわれわれが古い方から数えて二番目、古い順からのスタート二番目になった次第。五二期も古くなったもんだなああと互に話し合つた。このような場面では一瞬しみじみとして還暦の実感のようなものが迫ってくる氣持だが、これとてもそのときだけのことであつて、すぐさまこんな実感は消え失せ、また二七、八才の自分に忽ち戻る。これは不思議といえだ不思議な心理現象といふべきか。

さて、同級生ゴルフも楽しいものである。この日の成績は直原の独り舞台。ニヤビン二つ、平行賞・三位入賞をせしめ、両手に賞品をかかえて終始喜びます。今年の五月静岡の定期総会の翌日島田ゴルフ場で崩壊した時の直原の顔と比べると興味深かつた。同級生ゴルフといへば、去年は一〇月下旬に坂本の世話で白河の榎倉田舎カントリークラブへ行つたことがあるが、その元氣な坂本も今年の夏病氣でダウンしてしまつた。しかしその後退院して快方に向つていくとのこと、一日も早く回復してものような元氣な姿になることを願つてやまない。

今年(昭和五五年)の関東在住五二期会は一月二日丸の内国際ビル地下ヨールでやることになつてゐる。今井・岩本両世話人の手で案内状の発送その他の準備が進められてゐる。楽しい会合になる筈である。

最後に、また前号に続き悲しい知らせをしなければならぬ。清水の長阪隆男君が先月一〇月九日急逝された。謹んで冥福を祈りたい。(曹根信一)

### 五三回

我々五三回生の干支庚申様の年も残り少くなりました。今年から来年にかけては還暦と共に定年

現役と離れる人々が多い訳で、先とご機嫌でワカイシユウラ(我々に虎岩君、手島君等から御挨拶状を頂きました。かく申す月見里もた。例外ではありませんが。

そこで新しい人生の再出発にハズミをつけようと、十一月八日静岡での同窓会総会の後六時から丸山町の喜久屋で同期会を行います。夜の延長戦に及んだ者も大分居た。集る者四十数名、中でも福岡様でした。(月見里得知郎)

### 五四回

水野尚君等の遠路組、関東からは奥野、香林、園田、谷、益田、松前、望月(昂)の諸君、又佐久間ダムの山中からの長嶋鋼典君や地元としても久し振りの山川林平君等珍しい顔ぶれも見えて賑やかでした。

又恩師直井・三上の両先生、及び鈴木与平同窓会長もおつき合い願つて会を盛にして頂きました。方々にお会いしました」と。

狩野会長の挨拶、長谷川幹事の会計報告の後、初めての出席者という事で益田君の音頭で乾杯し、例のオラオマツチになる。華やか

いお姐さん達も入つて来て三味線の音等が聞え出し氣分の盛り上つた所で赤いチャンチャンコならぬ捲脂に「五三」のシンポリマーク入りのネクタイが披露された。之は岩堀君の肝煎りの由で実費三千

五百円。忽ち全員赤ネクタイとなつたら、たずねて欲しい。

名古屋の住所は次の通りであるから、あちらの方へ行くことがあつたら、たずねて欲しい。

(地下鉄池下駅に隣接)

電話〇五二(七六一)四一八一

愛知厚生年金会館 鈴木絃様

さて、冒頭にあるように、本年度総会が六月二十日築地スエヒロで催された。当日は生憎の雨であつたが、次頁の写真に写つてゐる五名が出席し五四季会の健在ぶりを示した。

ところで、この写真を見て、四十年前の面白坊主共を想像できま

すか。一体、誰だと思ふ? 左から柴田久夫君、旧姓今井久夫君で、一年の時、習字で教えた柴田タマネギ先生に請われて婿ドノにおさまり柴田に改姓。

前号の各期だよりで友人の近況お知らせで紹介されたことは先刻御承知のはず。

二番目は安東哲夫君なることは一目瞭然。最愛の奥さんを亡くされ失意のうちにあつたがようやく元氣を取戻され当日は共に楽しく語り合つた次第。

真中は山口道也君。静中時代、僕達より一年以上上級に居つたが、体を壊されて留年し、たしか、僕と組が一緒だつたと思う。その関係が、なんとなくよわな感じがしたが、今や堂々たる任金物産常務の風格を備えていた。

その右は、かくいう小生である



総会に集まった五四季会の面々。

が、いたずらに馬酔を重ねるだけで、なにもなす所なく、内心ジクジたるものがある。一番右こそ細井庸司君。と言っ

分るだろう。現在は組井組専務として建設業界にハチメンロピの活躍を続けている。

因みに、この写真は一年先輩の月見里氏撮影によるものである。

会が進むと、自然に五人一所へかたまるようになり、細井君が小机と腰掛をしつらえ、五人だけの円卓会議となり、ビールにオデン・ハンペンフライをごっそり持って来て、鯨飲馬食し、キエンをあ

げた。会終了後、五人連立ってビヤホールライオンへと繰込み、二次会となり、深更に及んだ。

その時に話合ったことだが、年に一回くらいは同期会を持ちたいものであるが、といったことであつた。同窓会といつても、他の期と話合うことは殆んどなく、話しも白々しい。同期生なら、特に同クラスとか遊び仲間ならツーカーで話が通じ、言葉にも遠慮する気遣いが無い等が同期会のいい所だろう。一人で考えると偏つたものになるから、いい考えがあつて相談のろうという人がいたら申出てほしい。企画してみたいと思つているから。

いつも会報に書いていることだが、この五四回のスペースは僕達のものだから、思う存分言いたい放題書きたい放題に使おう。それだから全く気兼ねなく便りをよこしてほしい。自分のことでも五四回の友達のことでも。(庵原)

## 五五回

私たち五五期が卒業したのが静岡大火の年、昭和一五年だったから、ちょうど四〇年。勤めの人はここ数年、定年を迎えている。か、神宮外苑での壮行会を進行した最初の学徒出陣組でもあつた。同期生約二〇〇名、特攻戦死を含む物故者四〇名、不明三〇名、現在連絡のとれているもの一三〇名、うち静岡周辺三五名という現況である。

同期では是非紹介したいのは、長谷通りのカメラ店「チェリー」の山本礼司君である。彼は写真(現東工芸大出身)海軍、一三期の予備学生、飛行機乗りだったが負傷生還。昭和二一年から現在地で営業しているが、私たちは何かと彼の所へ立ち寄る。そこで近況を報告し、皆の消息を得ているのであるが、彼が居なかつたら、不明になつてしまつた友がもつと多かつたと思う。

ところで、文句を言いたいことがある。静中は「野球学校」ではないのである。毎たびの同窓会でも、一昨年の駿府会館の創立百周年記念パーティですら、甲子園々々といふのは少しおかしいではないか。昔から、頑張っているのは

野球部ばかりではない。運動部だけではない。「文武の道を励げ」なかつたか。ましておいてや、野球部後援会の一部に、スカウトまがいのことがあるというのが事実としたら、もつての外である。

断つておくが私も夏はテレビにかじりついている。東京から、何度か草履にも甲子園にも行っている。嫌いで言っているのではない。も一つ、ついでに言うが、応援席も品位がない。一体、大漁旗は静岡の何なのか。真似るなら、プロや都市対抗でなく、東京六大学のように、学生主体のスマートな応援ができないものか。私たち五五期は、いわゆる戦中派、そして、百年史(二八五頁)にもあるが、あの時代に奇しくもストライキも経験した。いま光栄にも、同窓の初めての校長という吉川晴夫君と教頭の渥美寿郎君は共に同期である。思えば東京も永くたった。「霊峰富士」を仰ぐ、心豊かな、文化的にもハイレベルな城下町の「県立第一中学」を母校とする誇りと喜びとを、定年々令になって、今更ながら新たにしている此頃である。

(山本武)

## 五六回

昭和五十五年十一月七日金曜日午後六時から日本輸出入銀行青山寮において五十六期関東地区クラス会を開催し、秋の夜長を和氣あいあいのうちに杯を酌み交わしつつ歓談した。私達の年頃になると職場においては仕事変りの時期ともなつて、某君はあの会社からこの会社に行くというような事が行なわれている。

昭和十六年春卒業し、戦争、敗戦それから復興へと経験した私達も早や来年は四十年を迎えようとしています。健康第一で五十年六十年へと歩み続けて行きたいものと思つております。五十六期クラス会は、毎年十一月第一金曜日が開催日となつておりますのでよろしく願ひいたします。

当日出席者(十四名)

石塚由雄 植田政裕 奥野 進  
佐野豊彦 清水逸郎 杉原泰二  
竹佐太一 高橋四郎 中村治郎  
原 敏彦 萩原達雄 杉田一郎  
松田光彦 山田 隆  
最近ふと耳にした歌の一節を書きとどめます。

## ◎大正生れ

大正生れの俺達は  
五十、六十のよい男

子供もいまではパパになり  
可愛い孫も育つて

それでもまだまだ若造だ  
やらねばならぬことがある

休んじやならぬぞ なあお前  
しっかりやろうぜ なあお前

(山田 隆)

## 五七回

会報の前号(第九号)に西田先生の消息が歌集「流曳」の披露の形で紹介されていた。お世話になつたにもかかわらず無音にすぎ、申しわけない次第ながら、先生の健在を知り嬉しく、また懐しく読ませていただいた。私共は昭和十七年三月に卒業したが、二年生と三年生のときに漢文と東洋史を覚えていただいた。また何かの折に先生が大学時代に研究された北条泰時の「貞永式目」について承つたように思う。たいへん実直で、独特の抑揚、ハリのある声で講義をされていたのが昨日のこのように思い出される。中国の王朝、三皇五帝に始まり清に至る全部の王朝の名前を覚えておれば中国史の半分を覚えたと同然であるといつておられた。そこで私も極暗記をした。当時は御歴代・教育勅語・青年学徒に賜りたる勅語など語じなければならぬものが多かつた。

おかげで歴史を趣味とするようになった。この王朝名の記憶がたいへん役に立っている。それにしても先生が漢文・東洋史だけでなく、本告先生ともども短歌を詠んでおられるとはつゆ知らなかった。先生のレパートリーの広さに、改めて頭の下がらぬ思いである。先生はますますの御健勝を祈念してやまない。

同期の集まりを三月に続いて十月にやりたいと思つていたが、幹事たる私の怠慢でおくれてしまつた。十二月に忘年会の形で集まりたいと、その日を楽しみにしている。(影島利邦)

## 五八回

電々公社に縁を受けて三十四年今春、意を決して転職を試みた。同じ電気通信事業ではあるが、車社会における国民のニーズに応じた自動車電話サービス事業である。

年度には名古屋周辺地区、福岡、札幌、広島地区へ、又五八年度には静岡、仙台、浜松というように予定されている。自動車電話は所謂、移動体通信の一種であり、此の外の移動体通信としてはポケッタベルサービスや船舶電話等がある。

マイカーを持ちながらさほどの車には興味もなく、別けても車社会の仕組等は毛頭知る由もなかつた。諸外国においても己にこのサービスは実用されているが、我国としても自動車・航空機よりの一般電話は国民の夢でもあつたと思う。私も車社会の一員として参画したわけであるが、実務に携わつてもまごつく今日此頃である。情報過剰時代。自己の満足する情報は自分で収集するしかない。他人の情報を安易に信ずる事に問題がある。自動車電話にもやがてファクシミリも取り入れられ、車自体がミニオフィス化する時代も近いであろう。齢五十を過ぎ新しく転職する事は勇氣もいるが、生き甲斐、やり甲斐を感ずると共に第二の人生はないものと思う。社会に奉仕出来る限り働くのが人生と思う。自身で選んだ道が満足している昨今であるとともに、一日一日を大切にしたい。(田熊博邦)

## 五九回

同期会の幹事のはしくれをやりはじめて五年ぐらい経つ。頼まれたわけではない。むしろ自分から買って出たといつてよい。これでも少しは人さまの役に立つことができるはずれば、それまで手前勝手に生きてきた自分の、せめてもの罪ほろぼしになるうというものだ。

年二回の定例同期会ごとに約七十通ぐらいの案内状を出す、反応はさまざまである。

①ただ出席、欠席とだけ書いて名前を書かぬ者(これでは誰だかわからない)。

②「幹事さん、ご苦勞さま」と言つてから出欠を知らせる者。

③「出席したいが仕事の都合でどうしてもダメ、誠に残念!皆さんにくれぐれもよろしく」これはもう実際に出席したぐらいの価値がある。ほんとうなら——。

④返事は欠席でも、近況をくわしく述べてくる者もある。連帯性を感ぜさせる。

⑤毎回、「出席」の返事だが、一度も来たためしのない者もある。

⑥住所が変わつたらしく、戻つてくることがある。事務局の方にも届けてないらしい。自分の方から通告

しない限り、普通はわからない。  
 ⑦普通はわからないが、調べる手  
 はある。元の住所の役所で転出先  
 をきくことだ。やっとなつきとめて  
 案内状を出しても無しのつづて。  
 よくわかったといふがしく思わな  
 いのだろうか。

⑧たまたまあるときだけ、つい  
 忘れて、あるいは出そう出そうと  
 思っていて返事を出しそびれたと  
 いうのは別に（これは誰にでも  
 ありうることだ）、開びやく以来  
 全く消息不明なものがある。生き  
 ているのか、死んでいるのかわか  
 らない。しかし手紙が戻って来な  
 いところを見ると、そこに住んで  
 生きてはいるのだから。

単にズボラであるという理由だ  
 けなら幸いである。皆に会いたく  
 ない、会えない——というような  
 事情があつてのことなのかも知れ  
 ない。会費も納めていないから、  
 これからは会報もとどかないとい  
 う。そこえゆくと「欠席」という  
 通知でも、通知がきたということ  
 で断絶は感じない。

愛は断絶ではなくて一致である  
 といわれる。しかし好い年をこい  
 て、たかが同期だからといって、  
 今さら一致もあるまい——という  
 声もきく。人はそれぞれの人生を  
 生きてゆく。手紙で駄目なら一度

訊ねてゆくべきか？ それともそ  
 っとしておくべきか？ 人によつ  
 ても違ふであろう。単に集会のお  
 膳立てをするだけなら楽だが、そ  
 こまで考える胸が痛む。

(青木静男)

六〇回

岡村崔(たかし)君のヴァァイ  
 カン壁画写真展を見ながら同期会  
 を開いて語り合おう、という文化  
 的で景気の良い歌い文句と共に、  
 第60期クラス会の通知が写真展の  
 招待券同封で舞い込んだ。久しく  
 御無沙汰している上に、招待券ま  
 でもらつては欠席は出来ぬと思ひ  
 つつ、さらに良く読むと、案内状  
 の隅に県立高女の方も参加されま  
 すと書いてある。初めは何か解ら  
 なかったが、やがてシステイナ礼  
 拝堂のイメージと重なつて、柳新  
 田の田圃の中の大建築の遠景が浮  
 び上り、お下げ髪の子のセーラー  
 服の後ろ姿をひたすら目で追つた  
 少年の頃の憧れの亡霊が、さながら  
 ミケランジェロの描く最後の審  
 判の復活の亡者の魂のように心の  
 隠れた隅から立ち昇つて来た。

8月22日、会場の西武美術館で  
 は高階秀爾東大教授と岡村君との  
 対談があり、僕は少し遅れて行っ  
 たので後からのぞいて見たら、補  
 助席も一杯の満員で、立って聴き  
 ている人の多いのには驚いた。ミケ  
 ランジェロ、高階の名にあやかる  
 点もあるにせよ、我らが同期の岡  
 村君の仕事がこれだけの人を集め  
 るとは、実に嬉しいことだ。岡村  
 君の苦心談は会報で別の所に彼自  
 身の文章でのはずだが、高い足  
 場を作つて巨匠の絵に最も近く接  
 し得た体験は他人のいかに望んで  
 も叶わぬ特権である。高階氏も言  
 つておられたがミケランジェロの  
 壁画の全撮影という難事業が教皇  
 庁で許可されたのも、岡村君の写  
 真家としての実績もさることなが  
 ら、教皇庁が岡村君個人を人間と  
 して信用していたからである。会  
 つて話せば誠実で謙虚な人柄がよ  
 く解る。あの宴席で彼と話したこ  
 とで印象に残つたのは、日本の最  
 近の若者の生き方と比べて、欧州  
 の若い人(特に女性)の方が道徳  
 的にしつかりしており、家庭や社  
 会の規範が生きている。恐らく日  
 本は戦争に敗れ、それと共に心の  
 規範まで失つてしまったのだ、と  
 言つていたことだ。真摯というよ  
 うな言葉は今の日本では余り使わ  
 れないが、岡村君は戦中派の生真  
 面目さをローマで保持し、写真道  
 ともいふべき研鑽の道を真摯に歩  
 み続けている。今後の活躍を祈り

たい。  
 所で夕方になるのを待つて写真  
 展のあたりにはいた面々も会場の東  
 方会館に集り、静中と県立高女合  
 同期会が始つた。初めてのこと  
 ゆえ、どうなることかと案ずるよ  
 り生むは易しで、幹事役上杉重吉  
 君の滑らかな司会のおかげで、な  
 ごやかに、忽ち十年來の旧知のご  
 とく、愉快に話し合いに打ち與じ  
 た。男性はもちろん旧友のはずだ  
 が、卒業以來35年ともなると自己  
 紹介の名前を聞かなければ他人と  
 しか見えないほどの旧友になつて  
 いる。しかし、間もなく、そんな  
 こだわりも忘れてしまった。共通  
 体験としての三菱の工場での勤勞  
 奉仕の話になると、誰もが少年や  
 少女の頃の頬の赤みを甦えらせ  
 る。少年の頃の夢を育てた思い出  
 は年をとつても心の中ではいつま  
 でも若く生き続けている。それに  
 しても日本には男女の自由な話の  
 出来る場が無さすぎる。同期会の  
 ような機構が代用しなければその  
 機会がないのは、淋しいことでは  
 ないだろうか。決して放恣に流れ  
 ず、ルールを守る会合が卒業後35  
 年にして実現したと見れば、それ  
 はなんとと言っても一大成果かもしれ  
 ない。若い人々から見れば阿呆  
 らしいの一言で終りかもしれない

が、僕ら90期生たちは何事につけ  
 もものしく装うことに、また一  
 種の喜びを感じているのだ。  
 僕たちの静中時代は戦争の重圧  
 で喘いでいた。その上、昭和15年  
 春に入學し、16年5月に、橋崎校  
 長、翌年9月に西村校長と續けて  
 二人の校長の死に出会つた。橋崎  
 先生は49歳5カ月、西村先生は48  
 歳11カ月で亡くなつた。今、僕た  
 ちの方がその歳を超えて生きてい  
 る。貴重な人生をより大切に生き  
 たい。集つた僕たちも県立高女出  
 身の方々も皆そう思つた。楽しく  
 しかも真摯にと。

△出席者▽井出裕雄・池上晴介・  
 上杉重吉・岡村崔・笠岡達男・君  
 島康弘・里見元一郎・柴田正臣・  
 鈴木吉明・堤崇・野呂実・萩原壯  
 平・原善三郎・原田竜二・逸見昭  
 三・山本正三・山本雅之助・渡辺  
 清夫・渡辺博

△特別参加▽秋山(北川)己代子・  
 荒川(匂坂)郁子・伊藤(飯塚)  
 君子・小笠原(深沢)美佐子・鈴  
 木(小林)初代・細井(小倉)光  
 子・村松(仲野)メグミ・渡辺  
 (杉山)二三江(里見元一郎)

六四回

静岡・東京合同で  
 第六四期生同期会は、十月十八

日(土)午後三時より八時まで東京銀座キャピタル・ホテル別館で盛大に開催された。卒業後初めて試みとして東京側が幹事役となつて、静岡・東京側で東京で行うことになったもの。当日は静岡からバスをチャーターして二十余



名がかけつけ、東京側の四十名と合流して総数六十三名と大変な盛況。近藤昭蔵君、野沢正憲君の開会の挨拶の後、来賓として出席された鈴木敏夫先生より静岡高校の近況報告をかねた御祝いの言葉が述べられ次いで先般の参議院議員

選挙に自民党公認で出馬し、四十万票を獲得して善戦惜敗した藤田栄君より感謝の言葉があり、参会者一同より騰土重米を期しての温かな声援の拍手がおくられた。鈴木先生の音頭で乾杯、懇親会に入つたが、出席者の一人一人より、仕事や家庭の自慢話が披露され、和気あいあいのうちに会が進行した。

特に当日のお料理は、銀座キャピタル・ホテル、大石次男氏(六一期生)のご好意で盛り沢山な特別メニュー、お酒は東京在住同期生より十数本のスコッチウイスキー、ブランドイなどの寄贈があり豪華であった。

また、かつての静岡の名投手大原規男氏(現読売新聞出版局長)がナポレオンと読売新聞主催の美術展の招待を多数用意されて特別参加され、わが静岡の好投手佐々木一夫君と三十余年ぶりの握手をかわし、盛大な拍手をあびるといふ一幕もあった。

最後に斎木浜雄君の音頭で校歌・応援歌の大合唱。午後八時すぎ別れを惜しみつつ、岩本吉雄君の閉会の言葉で散会。静岡側で用意されたわさび漬・みかんをお土産に、それぞれ銀座での二次会に散つていった。(名波倉四郎)

## イルカと人間(4)

36回大村秀雄氏の著書から

編集委員 月見里 得知郎

前回は日本建築の鴉尾(杏形)やお城のシャチホコとイルカの話でした。面白い事にその後東大寺昭和大修理の落慶式が行はれ、大仏殿の鴉尾がテレビで取上げられましたので私共も少々知ったか振りを見せて頂きました。

さて、今回は現代のイルカの話になります。

### ○

現代のイルカは水族館の人気者である。水族館でイルカを飼いはじめたのは、世界でおそらく日本が最初である。小川鼎三先生の「鯨の話」によると、同先生の昭和九年夏のイルカ行脚の際、静岡県の三津の水族館で飼育されていたのを実際に見ておられる。このイルカはシャチという触れ込みであったが、実物を御覧になってシャチではなくトウルシオップスであることを確かめこれに和名ヘンドウイルカを与えたのであった。

当時私は農林省水産局に勤めていたが、この話は聞いてはいたが

実物は見たことはなかった。ただし私と一緒に仕事をしていた故松浦義雄君が見ている。その話によると、当時既にいろいろの芸当をやつたようである。ジャンプはもちろんのことであるが、飼育人の手から日の丸の旗を貰い、これを口にくわえてプールを一周したりしたという。これが世界最初の飼育の記録であろう。ただし当時の三津の水族館は、天然の小さな湾を利用して、その入口を網で仕切つた簡単なもので、今日どこでも普通に見られる、鉄とコンクリートで固めたプールではない。

### ○

今日ではイルカは多くの水族館で飼われていて、イルカのサーカスとして人気があるが、これは自然のものではない。人間の世界でも、衣食足つて礼節を知るといふ言葉があるが、イルカの世界では衣はいらない。食だけである。食を毎日定期的な与えられれば或は御褒美として与えられれば、程度の差はあつても、たいいていの動物

いたが、この話は聞いてはいたが

は餌を与える人間の言うことをよくきくことになるのであろう。したがって餌づけが出来ればもうしめたものである。このいい例がシヤチである。シヤチは特に外国では狂悪なギャングとして怖れられかつ憎まれていたが、水族館で飼育されるようになると、一変して愛くるしい動物となつてしまつた。

本書では水族館のイルカは取り扱わない。自然の海にいるイルカと人間のかかりあいである。二〇〇年前の地中海では、そこに棲む自然のイルカと人間とのかかりあいがあり、それが元となつてポセイドンとイルカの神話が生まれたり、イルカが造形美術の世界にも入り込んだものと思う。このようなイルカと人間とのかかりあいは約二〇〇〇年のプランクがある。ギリシャ・ローマの時代には、数多くの物語が残されているが、その後このような話は何も残されていない。

## ペロラス ジャックの話

ペロラス・ジャックとは、特定のイルカに与えられた名前であるが、このイルカは二つの点で有名である。一は二〇年以上に亘つて船の水先案内をしたことであり、その二は法令によつて完全に保護された最初のイルカであることである。イルカの種類はハナゴンドウ(マツバイルカ)であつて、英名は *Risso's dolphin* 学名は *Grampus griseus* である。このイルカは日本の水族館では飼育されて、よく芸当もするから、御存じの方も多いものと思う。水族館ではハナゴンドウクジラと特にクジラをつけて呼ばれているが、普通のイルカと異なつて頭が丸くて大きい。体長は四メートル以上になるが、この辺りの体長がクジラとイルカの境目である。イルカも動物学上はクジラの仲間であるが、これより小さなものがイルカ、これより大きなものがクジラと呼ばれるのが普通である。

に亘つて勤めたのである。水先案内とは人間が勝手につけたのであるが、このイルカは、ウエリントンを出た船がネルソンに向かう時は、ペロラス・サウンド付近から現われて、船の先頭に立って泳ぎ船がダルビル島と南島との間の狭い水路のフレンチ・パスに来るまでの間、ずっとその船と一緒にあつた。逆のコースの場合はフレンチ・パスからペロラス・サウンドまでであつて、これ以外にはみ出すことはなかつた。来る日も来る日も、昼であるうと夜であるうと、ここを通る船には、いつも随つた船のエンジンの音を聞くと思つたとして現われて、船の廻りを跳びはねたり、船首の波に乗つたり、船の外板で自分の体をこすつたりして、一定の場所に来ると、尾ヒレを踊らして姿を消した。この間時間にして約二〇分、距離にして約六カイリであつた。

ウエバー氏によれば彼等の船は僅か一三〜一四フィートの長さだつたから、イルカが横に來た時はこれがいい物指となり、これよりイルカの体長を一一〜一二フィートと推定したとのことである。彼によればペロラス・ジャックは、ずんぐりして、小さな脊ビレがあり、胸ヒレは小さく、尾ヒレは強大な鯨のヒレであり、体は灰色で腹側に行くに従つて白くなつていたという。頭は大きく丸く、付近に数多くいる他のイルカとは異つていたという。

に黒味がかつていた。" 斑の灰白色で不規則の斑点があり、殆んど黄色に見えた" などまちまちであるが、ある者は "年とつていように見えた" とつけ加えた。

夜間に見た人の話では "長さ一四フィートの青白く光る火の玉が水中を疾走し、かつ突如として空中に舞い上がる。その飛沫は無数の火の粉が降るようであつた"。これはウミボタルの為せる業であらう。

このようにして一九世紀の終りから二〇世紀の初めにかけてペロラス・ジャックは規則正しく、ここを通る船の水先案内をした。このイルカを見るためにわざわざ船に乗る人もいた。このイルカはどの船にもつたが、同時に二隻來た場合には、船足の速い方につき、速ければ速いほど興味があるように見えた。きまつた場所へ船につくから、中にはそこへ來ると合図するかのようにわざわざ気笛を鳴らす船もあつた。

このようにしてペロラス・ジャックは人々の人気の対象となつたが、ある日のこと一人の乗客がイルカに向かって発砲した。幸にして弾丸は命中しなかつたが、これを契機として、彼を法律で保護すべしという意見が持ち上がった。

ジョージ・ウォレス・ウエバー氏は最初にペロラス・ジャックを見た一人である。彼の父はフレンチ・パスの近くに住んでいて、同地方の郵便局と特約し、毎週一回郵便物をそこから船に乗せていた。この仕事は一八八八年から始まつたが、当時まだ子供であつたウエバー氏は、一八八八年に学校の

昼間にペロラス・ジャックを観察した人達の言葉は "脊中は明るい灰色であるが、一面に長い掻き傷があつた"、"白又はクリーム色であるが、脊中はやや黒味がかつていた"、"イルカと同じよう

## Regulations

1. During the period of five years from the date of the gazetting of these regulations it shall not be lawful for any person to take the fish or mammal of the species commonly known as Risso's dolphin (*Grampus griseus*) in the waters of Cook Strait, or of the bays, sounds, and estuaries adjacent thereto.

2. Any person committing a breach of this regulation shall be liable to a penalty of not less than five pounds nor more than one hundred pounds.

さらにこれに輪をかけたのが、ヨーロッパのある博物館が彼の屍体を高価で買い入れるという噂である。高い金で売るために、誰かが殺すかも知れない。どうしても保護しなければならぬ。これが結論であった。

この意味は、この規則を公布の日から五年間、クック・ストレートおよびその付属水面では、通常ハナゴンドウとよばれる魚又は哺乳類を捕獲することはできない。これを犯した者は五ポンド以上、一〇〇ポンド以下の罰金に処す、ということである。ただ問題なのはハナゴンドウの学名も正しく書きながら魚又は哺乳類と極めてアマイな表現を使っていることである。それは、この規則は一八九四年の漁業法によって制定されたのであるが、この法律では知事に魚の捕獲制限に関する権限を与えているが、哺乳類の捕獲に関してはこのような権限が与えられていないから、便宜上このような表現を使ったのだとされている。

いずれにしても、この規則によってペロラス・ジャックは完全に保護されることとなった。この規則が公布されるまでにペロラス・ジャックは既に一五年間も水先案内をしていた。この規則の期限は五年であるが、その後二回更新された。一九一一年三月に一頭のイルカの死骸がダルビル島に漂着した。その格好は、ペロラス・ジャックに似ていたが、色は黒かった。この報告はペロラス・ジャックの死として新聞に報道されたが、直

ちに船員から反論が出た。この時はまだ健在で、依然として船にくぐりというのであった。しかしながらそれから約一年経った一九一二年に、彼の姿は永久に消えてしまったのである。

ペロラス・ジャックを保護するために、一九〇四年に禁止令が出た時は、その種類はハナゴンドウとされたが、どうしてハナゴンドウと同等示されなかった。果しては何等示されなかったか、科学者の間でも議論が行なわれた。ハットンとドルモンドは最初は、体色が白っぽいことから、これをシロイルカとした(一九〇四年)。このイルカは北極海だけに棲んでいる。そこで彼等は次にアカボウクジラとしたが(一九〇五年)、最後はハナゴンドウとした(一九二三年)。このようにいろいろの議論があったが、決定的なものはない。最近ではガスキン(一九七二年)はおそらくハンドウイルカであろうとした。その理由はクック・ストレートではハナゴンドウは極めて稀で、過去の例を見ても一八六七年に得られた下顎骨が標本としてあるだけである。これよりも普通に見られる種類で、かつ船にもよくつくハンドウイルカの可能性

が強いとしたのであった。

ところが一九七二年の五月に二頭のハナゴンドウがウエリントン近くの海岸に漂着した。漂着したと言っても、最初はまだ生きていたから、自分で陸に乗り上げたのである。日本語ではいい言葉がないが、英語のストラレンジングである。これを国立博物館のベーカー博士が詳細に報告しているが、この論文の中でペロラス・ジャックにも触れている。特に重要なことは一九〇七年に、長年に亘ってウエリントンとネルソンの間を航海していた、ある船の船長が撮影した写真である(図57)。ところが他にも、これと全く同じアングルから撮ったといってもよい



57図 ペロラス・ジャック

程似ている写真がある。それはアメリカのエバンス博士が、数年前に日本を訪問した時、江の島の水族館で飼育中のハナゴンドウを撮影したものである。この両者を比較すればペロラス・ジャックがハナゴンドウであることは、もはや疑う余地はない。しかも最初の同定者ベーツ氏自身の書いたカードも残っていて、これにはハナゴンドウの特徴をよく表現してある。クック・ストレートに漂着したハナゴンドウは、体の色が黒色であったが、これはまだ年が若いからである。ハナゴンドウは体の表面に線状の白色傷痕がある。これは二次的のものである。日本でマツバイルカというのは、その傷痕

が一定方向ではなくて、あつちを向いたり、こつちを向いたりしていて松葉状に見えるから、この名がつけられたのである。これにプラスして、年を取ると体の色全体が白っぽくなる。ペーカー博士もこの点にふれて、ペロラス・ヤジックは完全に成熟した個体であつたのであろうとしている。この論文は一九七四年八月に発表されたが、ペロラス・ジャックの種の同定に関する議論に終符を打つたものである。ペロラス・ジャックが永久に姿を消してから六〇年以上経った後、この問題がやっと解決したこととなる。

## ワサビの功罪

小 嶋 操 (53回)

ワサビはわが国特産の辛味食品である。昔は山間の溪流に自生していた。この付近は寺を建立するのに絶好の場所でもあったので、僧侶がおもに食用にしていた。ワサビ・サビの境地に到達するのに役立つに違いない。

慶長年間に安倍川上流の有東木という所の山葵山(地名)に自生していたワサビを湧き水に試植したところ、生長繁殖したのが栽培の始まりである。しかし、家康は徳川家の家紋が葵であったためか、ワサビを門外不出の天下の御法度品としてしまったので、流通はほとんどなかった。家康はそれほど珍重したのである。

井伏鱒二は「ワサビ盗人」の中

シダーゼ(過酸化酵素)である。この酵素の生理的意義についてはまだ十分にわかっていない。ワサビは高値であり、しかも日本特産とあつて研究材料に使うことは至難である。この点、粉わさびの原料、西洋ワサビは安値で材料になる。したがって西洋ワサビ、ベルオキシダーゼ(HRP)についての研究例は多い。テオレルがノーベル賞に輝いたのもHRPに関するものであった。

尿酸試験に用いる試験紙中にはブドウ糖酸化酵素、オルトトリジン(発色剤)のほかHRPが添加されている。発がん、遺伝毒性、老化を通じて、人の健康に重要なかわりを持つものは、変異原と呼ばれている。AF・2、フロキシシン(食用赤色一〇四号)ソルビノ酸と亜硝酸との反応物、農薬、金属化合物などには、いずれも変異原性が見付けられている。変異原性抑制物質がキャベツ・ゴボウなどの野菜類の中に入っていることが最近わかり、この因子はベルオキシターゼであると報告された。もし、ベルオキシターゼが変異原性抑制物質であるならば、この酵素の豊富なワサビや西洋ワサビが見直される時期が到来するかもしれない。

HRPは神経伝達物質をはじめとする細胞の構造と機能を解明していく方法を開発するのに重要な試薬にもなっている。ワサビを含む「香辛料」は一般に食欲増進作用がある。とくにワサビ中のアミラーゼ(ジアスターゼ)活性は強く、消化力が衰える九月ごろに活性は最高になるからますます価値が出てくる。

ビタミンB<sub>1</sub>の含量は少ないが、ワサビを摂食することによって、糞尿中のB<sub>1</sub>は増加してくるから、B<sub>1</sub>中の硫黄に芥子油の硫黄が入り込んでいくようである。つまりワサビは腸内B<sub>1</sub>合成増強剤になるということである。

新鮮なワサビ中には、ビタミンCの含量が多い。ビタミンCは酸化されるとその効力は半減する。ワサビには酸化抑制用、つまりピタミンCの安定化剤としての働きがある。しかも前述のミロンナーゼの活性回復作用があるから「馬鹿になった」ワサビや粉わさびもビタミンCを入れてやると「利口な」効く辛味料に生れ変わるのがある。

芥子油の強い殺菌性については結核菌の発見者コッホがすでに実験している。すりおろしワサビ汁を脱脂綿に浸して、病原菌をたく

さん培養した試験管の口元におくと、菌は十二時間以内に死滅するという。ワサビの一滴は太陽に次ぐ殺菌力を持っていると騒がれた時代もあった。

サバやアジのような魚にはアニサキスという寄生虫の幼虫がひそんでいる場合がある。たまたまこれを摂食すると、胃腸に寄生してアニサキス病になって患部にこぶができてくる。医者はこれをガンやカイヨウと誤診する場合が多い。生魚や刺し身を摂食する場合ワサビを少し利かせて食べると、この寄生虫は死んでしまうという。刺し身にワサビの組み合わせは、海魚によるアニサキス幼虫の感染防止に結びつくすれば、すぐれた人知ということになる。

ワサビには効能ばかりでなく、もちろん害作用もある。芥子油は呼吸中枢や血管中枢を麻痺させる。また消化器壁を刺激し、多量の場合は胃酸過多症になり、腸カタルを起こすこともある。

ワサビを含むアブラナ科植物には、ゴイトリンと呼ばれる甲状腺腫を起こす物質が含まれている。菜種粕は飼料に用いられるが、ゴイトリンのために家畜の甲状腺腫を起こすことがあり問題視されている。

(福大薬学部教授)

# 教皇訪日にあたって

青木 静 男 (59回)

新聞、テレビなどで、すでにそれとなくごぞんじの方も多いと思われるが、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が、来年の二月末、はじめて日本を訪れることになった。

教皇訪日を実現すれば、日本国及び日本カトリック教会にとって歴史上はじめてのことである。

東京地区の広報責任司祭である私にとって、そのP・R面での一役を担うことは、職務上いわは一世一代の仕事であるが、教皇の訪日は、単にカトリック教会内の出来事のみならず、日本国のそれでもあるので、タイミングを得たものとして、今回の会報を借り、教皇訪日とカトリックについての豆知識を少し紹介して見よう。

## 初歩の用語

とは言え、本誌への記事という性質上、まともな紹介の前に、きわめて浅薄ではあるが、よく耳にする、カトリックに関する用語をできるだけ関東同窓会に関連づけて述べることにする。案外この方

が、うけるかも知れない。

①教皇(法王)とは、キリストの一番弟子ペトロの後継者。

②カトリックとは、ギリシャ語からで、「公」「普遍」の意味をもつ。真理は普遍的のものだから。

③天主教ともよぶ。神のことをラテン語でデウスというが、それが「てんず」となり天主とあてた。

④カトリックを旧教、プロテスタントを新教とよぶことがある。誤解を招く呼び方だ。わかり易くいえば本家と分家。真理に新旧などあるはずがない。

⑤カトリックと言えば、静岡では「不二」がなつかしい。今は雙葉とよぶ。「実科」というのもカトリック関係だった。戦後には星美(章雄)、聖光(小鹿)なども加わった。ちなみに英和(静陵)はプロテスタント系である。私がカトリック信者となり、神父にまでなったのも、そもその始まりは二高等女学校四年生の、カトリック美少女?との出会いによる。

⑥東京では上智、聖心、雙葉、百合などがカトリック系、青山学院などはプロテスタント。同窓生の奥さんやお嬢さんの中に、カトリック系の女学校を出た方が沢山いて驚く。知らぬは亭主ばかり。

⑦カテドラルとは大本山のこと。

⑧カトリックと聖母マリアは切りはなせない。しかしマリアを礼拝はしない。ただ崇拜するだけ。

⑨駿府に桔梗川というのがある。真紅な血が流れているのを見て秋の七草の一つ桔梗の色に見立てたものだが、駿府のキリシタン千人人が川上で処刑されたためとか?後述するが、静岡一家康一禁教を結ばばありうる事だ。安倍川河原で火刑に処せられた者も。駒形通りの千人塚は殉教者を葬うため。

⑩聖職者の名を、カトリックでは司祭(通称・神父——精神面での父親という意味。神の父であるわけがない)、プロテスタントでは牧師という。神父のことをパトロン、伴天連などという、スペイン語のパードレ(父)が語源。

⑪牧師は妻帯するが、神父は終生不犯である。但し、女嫌いな、偏激な独身主義者、石部金吉を信条としているわけではない。

⑫神父は酒も煙草も飲む。そこへゆくくと牧師は禁酒・禁煙の人が多

く、迷惑なほど?真面目である。

⑬こともあろうに、わが静岡から実に五人の神父が輩出した。青木静男(59期)、「東京教区」西沢知之(66期)、「浦和教区」原俊(60期)、石上昭夫(62期)、山本学(66期)。「以上横浜教区」。事情

によって今では現職からはなれて

いるものもあるが、とにかく、ミッシェン・スクールでもない、地方?の一都市の公立中学・高校から、カトリックの神父が五人も出たというのは驚くべきことで、例

がない。しかも任地は皆関東だ。

ようこそ日本へ

教皇は来春の二月下旬来日、天皇、首相と会見、東京ではミサ、諸宗派指導者との会見、若人の集いなど。広島では原爆犠牲者慰霊碑前で核兵器撤廃を訴える平和アピール。長崎では日本キリシタン殉教者たちを賛える式なども。

長い間キリスト教を拒みつづけて無数の殉教者を生んだ国、信教が自由になった今もキリスト教徒は人口の1%に満たない異教国、世界唯一の核被爆国で一切の戦争を放棄した国、戦災のどん底からのし上った経済大国、欧米と肩を並べるアジア唯一の先進国など、迎える日本が異例の国なら、訪れ

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三 (67回)

東京都中央区銀座6-11-20 黒親ビル3階

TEL 03-572-2431 (代表)

る世界七億のカトリック教徒の指導者教皇も、労働者、詩人、俳優といった経歴をもち、スポーツ好きな、四五六六年ぶりの非イタリア人教皇、パチカン（教皇を元首とする独立国、俗にカトリックの総本山とも呼ばれる。パチカンは地名で、ローマで有名な七つの丘の一つ。聖ペトロ大聖堂が建つ）からもっとも遠いと思われた共産国ポーランドから出た教皇、若さにあふれて意欲的に世界を駆け巡る教皇と、これまた異例づくめである。

そんな教皇が日本で何を感じ、何を語るのであろうか。カトリック教徒ならずとも大いに興味のあるところだ。

### 日本とカトリック

日本とカトリックの最初の出会いは今から四三一年前の一五四九年八月十五日、鹿児島にフランシスコ・サビエルが上陸した日といってもよいだろう。サビエルは一五四六年の末、マラッカでヤジロウという名の日本人に会い、日本への布教を思いたったという。サビエルは鹿児島・平戸・山口を経て京都にのぼり、天皇との謁見を望んだが果たせず山口に引き返して布教した。サビエルの日本

滞在中は、数百名の改宗者を出したにすぎなかったが、かれは日本人を「私が出会った民族の中でもっともすぐれている」と高く評価している。サビエルに続いてヨーロッパから宣教師が渡来し、布教の成果も徐々に上るようになる。一五六一年、肥前大村藩主・大村純忠が改宗したのをはじめ、高山右近、大友宗麟などが相次いで受洗した。

一五七九年、イエズス会巡察師 A・パリニャーノ神父の来日の際、キリシタンの数は十万人を数えたという。パリニャーノは、有名な天正少年使節をローマへ派遣して、将来の日本の布教に役立てようとしたり、セミナリオ（神学校）を創立して、日本人聖職者を育てようとしたりした。だが、一

五八七年、豊臣秀吉は九州箱崎で突然、宣教師追放令を出し、キリシタン弾圧に乗り出す。秀吉のキリシタン禁令にもかかわらず潜伏宣教師たちは、密かに活動を続けていた。豊臣秀吉に、キリシタン迫害の強化を促す事件が起きたのは一五九六年秋のことである。サン・フェリペ号事件がそれで、この事件がきっかけとなり、二十六名のキリシタンたちが長崎で処刑された。日本二十六聖人の殉教と

して知られている「死刑」であった。

豊臣秀吉の死後、徳川家康の時代になるとキリシタン弾圧は激しさを増していく。一六一四年一月三十一日、徳川家康はキリシタン禁教令を発布、全宣教師の追放に乗り出した。隠れて宣教を続けていた神父や修道士、また、かれらをかくまった信者たちは次々に捕えられ、処刑された。徳川家康の禁教令は年々きびしさを増し、懸賞金つきで宣教師をさがし出した

り、絵踏み制度をもうけて、キリシタンをとりしまったりした。これらの制度は幕末まで二百五十年間続いた。日本のキリシタン弾圧はそのきびしさと長期にわたることとで、世界でも他に例をみないほどのものがある。

一八六五年二月十九日、禁教下の長崎大浦に、珍しい洋風の建物ができた。当時フランス寺と呼ばれた、今の大浦天主堂である。同年三月十七日、長崎の浦上の農民十数名が、フランス寺を見物に来

て、キリシタンであることを告白した。これが、キリシカン禁令後の信徒発見といわれるできごとである。神父も居らず、書物もなく先祖からの語り伝えだけで実に二百五十年の間、カトリックの信仰

が日本に生きていたのであった。一八七〇年（明治三年）一月には浦上のキリシタン約三千名が流刑にあうという最後の迫害があった。日本のキリシタンに、信仰の自由が与えられたのは浦上信者が故郷に帰った一九七三年（明治六

年）である。明治時代の宣教活動の中心になったのはパリ外国宣教会（静岡県下の布教も、主としてこの会にゆだねられている）の司祭たちをはじめ、雙葉、白百合、暁星などのカトリック学校を創設した修道会の修道者達であった。信仰の自由な時代となって百年、

日本のカトリック信者は、今ようやく四十万人を超えるようになってきた。世界最大の宗教といっても、我が国では甚だ微弱である。神父と牧師の区別さえ知らぬ者も一ぱいいる。先にも述べた通り、カトリックの神父を五人も出した静岡だ。教皇訪日を機に、教えの内容はともかく、せめて用語ぐらいは正しく覚え、しばしば失笑を買う国際的無知？から脱却しよう。



|   |  |
|---|--|
| <p>内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科<br/>人間ドック</p> <p>ねつ かん<br/><b>熱 函 病 院</b></p> <p>院長 小 坂 博 (67回)</p> <p>住 所 熱海市春日町12-2<br/>TEL 0557-83-3131</p> | <p>アクセサリースペースと憩いの空間<br/>各種ギフト・ゴルフの商品・記念品</p> <p><b>サロン・ド・グリーン</b></p> <p>土 屋 晃 康 (67回陸上)</p> <p>東京都新宿区西大久保 3-10 プラザ新大樹ビル<br/>(明治通りと大久保通りの交叉点)<br/>TEL 03-204-1251・1371</p> |
|---|--|

# 大山詣り

田附敏三 (45回)

前略 静中静高関東同窓会のことにつぎましては毎々面倒をみていただき厚く御礼申し上げます。

過日も大山詣りハイキングの案内を下さしまして有難うございました。毎日が暇な身でありながら当日は珍らしく欠かせぬ会合がありまして、折角お誘いをうけながら参加することができませず申訳けなく、又、心残りに思い居りますが、あの心くばり十分の下調べの記録を拝見して遊心止め難く、昨十五日(土)静高時代の文科内類の同級生と三人で行ってきまして行ってきました。とは申してもとても山頂まで歩けたものではありません。年令相応に変型しました。

伊勢原駅北口一〇・三〇集合、ハイヤーでケーブル登山口まで。車を降りてからケーブル入口までの石段を登るのでフーフー言う者も出る始末です。下社までケーブルで六分間で着くのも「大山詣り」と言へそうにもなく、途中の不動前で下車、大山寺不動尊に参詣、格別よく色づいた紅葉を賞めました。右側から女坂をとり、

下社めざして登り出しましたが、行けども行けども目の前は石段の連り。情けない話ですが、数度の小休止をとり漸く下社まで到着。当日は風もなく澄みきつた日和、七五三の可愛い姿も見られました。勿論、昼食時は過ぎて居りましたが、各自弁当水筒持参のことでもあり、そのまま見晴台へ向いました。縦の樹ですかその間の地道の散歩はたのしい限りでした。昼食後日向薬師に向いましたが、九十九曲あたり、相当きつい傾斜滑らぬよう用心して下りました。四時少し前やっとう日向薬師に着き宝殿も拝観、薬師三尊、四天王、(但し持国天増長天の二方だけ)十二神将もおがめました。

この日は下社の台からは江ノ島まで見えて幸だったと思います。こうした次第で、三人とも久しぶりに満ち足りた一日が味えました。いろいろ調べて下さった高山さん、月見里さんへ何んとかお礼申し上げたいと思ひまして、長々と冗文を認めました次第です。どうぞよろしく感謝の気持お伝え下さいますよう、ご用多しことと存じますが、お願ひ申し上げます。

177 東京都練馬区東大泉

三丁目三九ノ五

敬具

第45期卒

田附 敏三

になりますことを心配して、おたすね申し上げます。健康的に可能でしたら次の行事に参加させてい

追伸 十一月二日、集る方々は若共の年令(六十七、八才)もの者も居りましたでしょうか。足纏いますようお願いいたします。又拝

## 神宮の森に

### 関東同窓会旗翻える

十一月七日、母校野球部が中部地区代表として第十一回明治神宮野球大会に出場のため上京した。東京開催の公式戦参加は本場に



神宮の森に翻える静高関東同窓会旗

## 本田技研工業株式会社

川島 喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8  
TEL (499) 0 1 1 1 (大代表)

## 新日本証券株式会社

取締役社長 大石 巖 (53回)

東京都中央区日本橋1-17-10  
TEL (273) 2 3 1 1 (大代表)



60年の間不変の書体で懐かしいユニホームの胸のマーク 一年生大久保投手の力投ぶり

久しぶりのことで、関東同窓会としても、大いに歓迎すべきことで早速手筈をととのえました。当日夕刻、奥野副会長に急用が生じられたため、代理として事務局の山田政光氏と小生が早速野球部の宿舍に伺い、部長・監督両先生に関東同窓会としてのお祝いと陣中見舞の挨拶を申し上げ、善戦を願いました。当日、宿舎には昭和四十八年の夏甲子園で大暴れし、準優勝に貢献した白鳥・永島両君も部員激励のため顔をみせていて、好青年ぶりに往時が想われ、懐かしい想いをさせてくれました。計らずも伝統というものの有難さを感ぜさせてくれた一時でもありました。

試合は第二日目の第一試合で、十一月九日午前九時より神宮第二球場で宇都宮学園と交えることに決った。スタンド中央には、奥沢徹氏(59期)のご尽力により本年初頭に制作され春の選抜大会で甲子園のアルプススタンドにも翻えった静岡高等学校関東同窓会旗が尾上副部長先生のご協力により陣取ることができました。会旗は静岡岡よりバス新幹線で上京した静岡野球ファンやOB、選手父兄、それに関東同窓会員とその家族も交えた多数の応援団に囲まれ、神宮の森に濃紺に白地の5アカデミーのマークをなびかせました。しかし、戦績は主砲鈴木(智)の練習中の負傷欠場が大きく響き

エース大久保の調子も今一步で、守備にも破綻が生じて、8-1の敗戦となった。斯様な悪条件の中での対戦であったとしても攻撃・守備両面で、ボールに対する集中力の欠如が痛感された試合ぶりは残念で済んだ。その中であつて、一年生ながら初体験のトップバッターとして、三つの四球を選び出塁し、守備でも再三難球を好捕してセンターの望月選手の気合の入った動きは一服の清涼剤だった。いづれにしても捲土重来を祈るのみである。

当日、新聞記事で試合予定を知った方や、電話での応援呼びかけに応じて早朝から神宮第二球場まで馳せ参じて下さった関東同窓会の皆様ほんとうに有難とうございしました。皆様の熱心な声援は、いづれ選手たちが応えてくれるものと確信します。なお、掲載の写真は大坪信之氏(66期)が観戦を度外視して撮影、自から現像焼付まで手掛けて提供下、さつたもので深く謝意を表するものであります。(67期) 梶原由三記



### ゴルフ

第九回甲高会ゴルフ大会  
開催日 十一月三日祭日  
場 所 伊豆大仁カントリー  
優 勝 萩原達雄氏 (56期)  
進優勝 大場良臣氏 (70期)  
第三位 岩本吉雄氏 (64期)  
参加総数 三十五名

### ハイキング会

十一月二日、81高山貞和氏の計画で大山詣りハイキング会を行いました。  
当日は晴天に恵まれ楽しい山歩きが出来ましたが、人出も大変なもので集合地伊勢原駅前のバス停から駅の階段の上まで行列が出来た状態、関東同窓会自慢の手拭位では仲々目につかない様で集合できたのは45草野先輩夫妻、68荒谷

## 新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7  
神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

## 伊豆大仁カントリークラブ

## 伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋正秋

取締役支配人 安田正弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1  
TEL 0558-76-2401 (代表)

さん、宇田さん、69松島さんと月見里の六名で、54庵原氏、66安池氏等も来て居られた由ですが混雑に紛れてしまいました。

コースを相談の結果、人出も多い事だし、Bコースにしようという事で阿夫利神社下社、見晴台、日向薬師のコースをとりました。



ケーブル下バス停からケーブル追分駅までは土産物屋や茶店の門前町。子供連れがあれこれ物色しながら、石段道を賑わしていました。

林や二重の滝を見ながらの快適な三十分で見晴台に出ます。丁度十二時近くで、そこからはピクニックの弁当を拡げている中で私達も昼食にしました。例によって御婦人の方の豪華弁当を御馳走

程休憩。見晴台からの下り道は、最初のうち檜の落葉が散り敷いたクッションが快い。然し、これも暫くで樹林の中に入り、杭と横木の階段道となり、九十九曲りと称するジグザグを繰返えす。年のせいとは言い度くないが、膝にこたえて来るので途中休憩。お菓子や水等の荷を減らし、おしゃべりで気分転換。そのうち開けた自動車道路に出る。この附近はリンドウやトリカブトが多い由で、私達も一株二株を見かけてしばらく休憩して楽しむ。更に十分程で山道とお別れ、簡易舗装の道に出て石雲寺で休憩。この附近に鱒釣場で賑わって居た。稲刈りの田圃を見ながら日向薬師にお詣り。日本三大薬師の由で仲々立派なお寺である。痛む膝が早く治って明日のゴルフ会で勝てます様に!

四時頃バス停着。此処も長蛇の列。三十分待つて四時半発。伊勢原駅には五時着。此処で解散しました。お天気は良し、暑からず寒からず、存外楽なコース。紅葉に少し早いのが惜しまれましたが楽しい一日でした。

会 報 (第十号)  
昭和55年12月19日 発行  
編集人 月見里得知郎  
発行所 静岡・静岡  
印刷所 関東同窓会  
印刷所 庵原印刷所

(月見里記)

長戸寛美氏 (43回)  
受章に輝く  
叙勲おめでとうございます。四三会から同期の長戸寛美氏がこの度勲一等瑞宝章を受けられた由御連絡がありました。同氏は広島高校、東大卒。昭和十年検事任官以来昭和四十八年最高検次長検事を経て定年退官に至るまで、永年検察行政に尽力された事に対して叙勲されたものと承ります。心からお慶び申し上げます。尚、この秋の叙位叙勲にはこの他にも該当された方があるかと存じますが、仲々調査が行届きません。洩れて居りましたら御容赦下さい。

川 根 銘 茶

三保乃園山菅茶店

山菅章雄 (53回)  
(村松正七)

東京都港区南青山1-20-6  
TEL 03-403-5760

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57回)

本社 静岡市国吉田645  
TEL 0542 (62) 1111 (代)  
東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル  
TEL 03 (272) 4651 (代)

## トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤次郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

## 鈴与株式会社

取締役会長 鈴木与平 (44回)

清水市入船町11-1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

## 株式会社 講談社

取締役社長 野間省一 (44回)

東京都文京区音羽2-12-21

TEL (945) 1111 (大代表)

## 凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

## 合同酒精株式会社

取締役副社長 堀豪三 (44回)

東京都中央区銀座6-2 合同ビル

TEL (571) 8641 (大代表)

## 株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

建築コンサルタント・設計施工業務  
建築に関する御相談は御気軽に……

## 株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53回)

取締役営業部長 奥野広 (58回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

## 株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53回)

取締役社長 奥野進 (56回)

取締役副社長 吉川善吉 (56回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

TEL 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

TEL 0542-46-9378